

第 26 回つくば市政地区別懇談会（地区コン） 懇談録

日時：平成 24 年 3 月 10 日

場所：谷田部小学校体育館

1. 山中学園台は、T X の交通事情の変化もあって爆発的に家が建っている。ところが、団地造成時からごみステーションがない。今までは不在地主の前の道路を使用してきたが、だんだんと不在地主も少なくなり、置く所も限られてきた。公共用の空き地が少しあり、そちらに作ろうという話も出ているが、近隣住民からの強い反対がある。先週から、団地内の全員を対象に話し合いをしているが、どうも 10 軒程度の小規模ごみ箱持ち回り方式に動いていくような話の流れとなっている。私自身も、そのほうがメリットは大きいと思う。個別収集では、分別に対する意識が高くないと思うからだ。持ち回りの場合、少人数ということもあって誰がごみの分別を間違えたかがわかりやすくなるし、プレッシャーが掛かって出す方の注意力も増すと思う。ごみ収集の方針が決まった暁には、市役所に伺ってお願いをしていくかと思うので、是非温かく柔軟な対応をお願いしたい。そして収集方法について何か御検討されていることがあれば教えていただきたい。	環境生活部次長 業者がまわって収集しているので、集積所が点々と変わることに関しては難しい部分もあるかと思う。その件については廃棄物対策課と今後よく御相談していただき、その後検討させていただきたい。
2. 市長のお話から、谷田部の体育館と市民ホールが間もなく使えるようになるということがわかり安心した。そこで要望なのだが、地域のお年寄りが困っているのを、再使用で	市長 ATM 設置は市だけで決められないので、関係機関等に相談させていただきたいと思う。ATM に限らず、高齢者が増えると移動が難しくなるので、買い物等も含めた高齢者に対する様々なサービスを、トータルで考えなくてはいいけない

きるようになるタイミングに合わせて、市民ホール近くに ATM を設置していただきたい。 それともう1つは感想。3月5日、会派代表質問を傍聴したところ、開始時間を過ぎてから入ってきた議員が2人もいた。申し訳なさそうにしているのならまだしも、遅刻をしているのに堂々とした感じで、あまりいい印象を受けなかった。	と感じている。今すぐは難しいが、今後関係団体・機関と相談をしていきたい。 議員に関しては、議会事務局にもよくお願いし、時間厳守を初めとして議員らしい対応をしていただけるよう申し入れる。
3. 最近、市の色々な広報等がホームページに載っているという話が多分にある。ホームページを見られる市民が何パーセントくらいいると想定してそう言っているのか。 それと、市内の放射線量がホームページに載っていたが、一緒に掲載されていた地図が不鮮明で場所が見にくい。改善してほしい。	市長 紙ベースでお届けするとなると、時間が掛かる上に大量の情報を伝えにくいですが、インターネットは大量の情報を早く伝えられるので、そのような場合にホームページ等を活用している。毎月の市報などでも情報は提供しており、ホームページだけでなく、いろいろな情報広報手段を組み合わせながら、できるだけ早い情報提供に努めていきたいと思っている。出てきた画像が鮮明でなかった件については、再度中身をよく点検し、見やすいものを提供したい。 市長公室長 アンケートの結果によると、6割以上の市民がホームページを御覧になっている。ただ、見られない環境の方もいらっしゃるので、広報紙と併せ、今後様々なメディアを使いながら広報活動を続けていきたい。また、ホームページの内容が見にくいという御意見もあったので、少しでも見やすくするため、来年度リニューアルに向けての検討を今現在重ねているところである。 放射線対策室長 地図が見にくい件に関して。放射線に関する小冊子を3月半ばから全戸配布の予定である。その中に詳細地図を掲載しているので、是非そちらを御参考にいただければと思う。
4. 商店街でお店を経営している。市民	市長 日本全国の商店街が空き店舗の増加に悩んでおり、少子高齢化や大型店舗

ホールやたべと体育館が 1 年間全く使用できず、それにより谷田部の商店街もお客様が減った。今年はどうしてもそれを直してほしいと思っていたので、24 年度に予算を組んで直すということ为先ほど市長さんの口から聞き、非常に安心した。谷田部においては、市役所も商工会もなくなってしまい、人が消え去ってしまった。お客様も大型店舗へ流れてしまい、商店街でも閉店するお店が年々増えている。各個店が努力をしないからだと必ず言われるが、小売業の店主は皆真剣にやっている。それでも学園都市の中心部にはかなわない。跡取りがいなくても致命傷である。これも親が子に跡を取れと言えないような状況で、このままではどんなお店も家も全部崩壊してしまう。我々小売店も一生懸命努力はするが、もとの活気あふれる谷田部の商店街に戻るよう、市としても対策を考えていただきたい。そして震災後、絆という言葉をよく聞くようになった。被災地では、避難所生活を共にしたことにより、その言葉が身に染みてわかったということであった。実際にそういう体験をしないと、絆というのは出てこない。だから市も町もだんだん絆が薄れてしまっているのではないか。絆というものについても、もう少し皆さんで深く考えていったほうがいいのではないかと考えている。よろしければ、このことについてもお答えいただきたい。

の郊外出店などの社会的現象もあって、これはもう地方都市におけるひとつの課題だろうと私は思っている。よって、つくば市独自で解決できる方法があるかと聞かれると非常に厳しい御質問だが、先ほどのお話にもあったように、買い物弱者が少しでも外に出て買い物ができるよう、きめ細かい交通インフラを整備するなど、いろいろな意味でつくばに活気が戻るような政策をしなくてはいけないと思う。一時、敬老祝い金というものをを出していたが、あれだけのものを続けることは市の財政上厳しかったので、額を少し減らして「いきいき商品券」として復活させた。この商品券は、約半年間で 95 %の方に使っていただいたが、使用場所が必ずしも地域の商店街ではなく、大型のショッピングモールなどが半分以上であった。そういうこともあり、この問題に関しての特効薬を探すことは、今の日本の社会状況の中ではかなり難しい。しかしながら、地域の活性化のためにあきらめないで取り組んでいきたいと考えている。

絆についてもなかなか難しい問題である。普段の生活の中では、地域のコミュニティや絆はあまり意識されないと思うが、こういう災害時こそ、その地域での人間関係がきちんとできているかどうか、本当に重要なことだと改めて実感させられる。しかし、震災から 1 年も経つと、絆というもののほころびも見えてくる。このようなことは制度等で定めてしまうものではなく、小さいうちからの教育やしつけ、そして地域との関わりなどをしっかり育てていくことが大事なのではないだろうか。日本人が今までもっていた人との付き合いが、現代社会の中でどんどん希薄になってきていることが影響しているのではないか。今回、私はつく

	ばで教育日本一の取り組みを進めていくが、これは学力だけでなく、人間同士のコミュニケーション能力、基本的な生きる力、そういうもの全てに渡る教育の充実を考えながらやっていこうと思っている。これに関しても、短期的に改善する方法はなかなか見当たらないが、時間が掛かっても、教育現場・家庭内、そしてまた地域におけるしつけや人間関係づくりなどを、総合的に改善できるような政策をなんとかとっていきたい。
5. 谷田部小学校に2人の子供を預けている。小学校でも放射線測定をしており、問題がないということで安心して預けていたが、放射線測定器を貸していただく機会があり、11月に登下校の集合場所から小学校までの通学路を測定してみたところ、ホットスポットがあった。一番線量が高かったのは、谷田部小の正門を出て道を渡ったすぐそばのアスファルトがないところで1.30マイクロシーベルト。押ボタン式信号機の下は0.67マイクロシーベルト。登下校で集合する八幡神社の落ち葉の上は0.44マイクロシーベルトだった。すぐ市に連絡を入れたところ、測定したのは全て地表から1cmのところであり、それは通学路であっても今後除染の対象とならず、市としての対応はしかねるため個人でやってほしいという回答であった。ただ、高い線量のところは、歩いて通過するだけでなく、立ち止まったり座り込んだりしかねない場所である。安心して子供を通学させるため、市としても除染を検討していただきたい。	市長 数値が一人歩きして皆さん大変御心配されているようだが、放射線は急性被曝と慢性被曝があり、1回に浴びる放射線量と24時間365日継続して浴びる量とでは基本的に全く違う。年間の放射線量が1ミリシーベルト以下という基準があるが、これは例えば、ホットスポットに24時間365日いる場合ならまだしも、そこに1時間いたくらいでは、基本的に全く問題のない数値である。1回の照射で、ある程度の健康被害がおこる危険性がある値は大体100ミリシーベルト。100ミリシーベルトはマイクロシーベルトに換算するとその1,000倍なので、十万マイクロシーベルト。これが短時間に浴びると健康に被害が出るかもしれないという値。そこから考えると、1.3マイクロシーベルトというのは周りから見ると高いかもしれないが、何か問題になるような数値ではない。今後も皆さんの不安を解消していきたいとは思っているが、今すぐそれを何とかしないとお子さん方の健康的に害を及ぼすということではないので、十分御理解いただきたい。それから、1.3マイクロシーベルトは全く低線量でそんなに問題はないのだが、それを集めると、その集積場所が高線量となってしまう。そのほうがよっぽど危ないわけで、すぐみんな1か所にかき集めるというこ

	とは、現状ではあまり拙速にやらないほうがいいのではないかと考えている。集合場所を変えて、定期的に線量を測っていく等の対応をしていくことが一番いいのではないと思う。 放射線対策室長 地表１センチで高い数値が観測されても、地表から離れると極端に値が下がる、これがマイクロホットスポットの最大の特徴である。実際に、地表０センチのところで２マイクロシーベルトあったところが、５０センチ～１メートル離れたところ、０.１～０.２程度の数字となった。放射線で一番影響があるのは臓器の部分ということなので、地表面の値に関して一喜一憂せず、ぜひとも市民の皆さんには冷静に判断をしていただきたい。マイクロホットスポットの存在は私たちも十分承知しているので、今作っている除染実施計画の中で、除染ということではなく、例えば道路の清掃をこまめにやる等の対策を今後検討したい。
6. ３年ほど前に周りを開発した関係上、側溝がついてないところがあり、水があふれてしまうので今年度１０月から早速工事に入っていた。しかし、無かったところには側溝がついたものの、既存の側溝も排水の役割を果たしていない。取り換えてほしいとお願いしたのだが、そちらはまだそのままである。対応していただけるのかお聞きしたい。 いえ、厚い蓋がぴったりと閉まっていて、側溝そのものを取り換えないと排水がされない状態。 はい。全然穴が開いてないので。	市長 既存の側溝は完全に壊れているわけですか。 市長 要するに詰まって中に行かないということですね。 市長 そう簡単に全部を取り換えることはできないので、実際の現場をよく拝見することが先かと思うがどうか。 都市建設部次長 本当に排水が悪いとい

	うことであれば、何らかの形で対応したいと思うので、まずは現場を拝見させていただきたい。
7. 市長には日頃市政にご尽力いただき、また市職員の方にもボランティアの清掃活動等をしていただき、非常に感謝している。この場を借りて住民を代表してお礼申し上げたい。今日は教育日本一についてお伺いしたい。つくば市を教育日本一にしたいという市長の考えに感銘を受け、我々も住民としてぜひ協力させていただきたいと思っているのだが、どのようにして日本一にしようとしているかがいまいち分かりにくい。先ほど後継ぎがないという話も出たが、若い人が集まってくる街の一つのキーポイントとして、教育レベルが高いということが挙げられると思う。例えば、TX 秋葉原駅には情報ステーションがある。そこに、教育日本一を目指すつくば市の取り組みを掲示するなどして活用してはどうか。今後 TX 沿線に住もうとしている方に、教育環境のいいつくば市を PR できる良い機会となり、市民増加にもつながっていくのではないだろうか。ますます魅力ある街にするため、もう少し市長のお考えを内外に明確に出していただきたい。 そして今春開校する春日学園。ここもつくばが教育日本一になるためのプロセスの一つであると、私は信じている。今後は春日だけでなく、子供が増えているみどりの地区にもぜひ小中一貫校の新設をご検討いただきたい。しかしこれには時間	市長 教育日本一の取り組みがまだ十分に PR されていないというのは私も同感である。しかし、小中一貫校ができることによってマスコミ等の露出度も徐々に高まり、春日学園に入学したいという方からのお問い合わせも増えてきていると聞いている。つくばの特色は非常に高い教育水準にあるわけだが、地域ごとに随分と差があるので、私としては学園地区だけでなく、つくば市全域の教育水準が上がるようにしたいと思っている。みどりの駅周辺に学校新設をというお話については、全地域において一遍に新設・統廃合するということは予算上厳しく、春日が終わった後には旧筑波地区を予定している。こちらは逆にお子さんがどんどん減り、小規模校が増えてあちこちで統廃合の必要が出てきた。地域の方とお話させていただき、理解も得られそうなので、筑波東中学校区の小学校を 1 つにして小中一貫校にという話が今かなり進んでいる。学校への距離が遠くなることに関しては、スクールバスを出すことで対応し、安全を確保する。学園地区の中は比較的距離もそんなない通学地域なので、現状を維持させていただきたいと思う。このように、地域の状況や必要性に応じてということになるのだが、特に周辺地区に関しては過疎化や安全性などの問題もあることから、ある程度の規模に集約し、できるだけ早く分離型ではない一体型の小中一貫校を作っていきたいと考えている。建物の整備に限らず、教育の中身も重要だということで、今回つくばスタイル科というものが特区の認定を受けた。これはつくば独自のカリキュラムで、文科省に見ていただいた結果、

とお金がかかる。お金をかけられないということであれば、スクールバスを運用し、児童数の少ない南小に児童を最適配置する、あるいは谷田部地区には高校が少ないので、高校の方の数を増やす、など違う方法で教育の充実を図ってはいただけないだろうか。みどりの地区における現在の教育施設等に関する市のお考えを、一度お聞きかせ願いたい。	内容の修正は全くなく、そのまま申請が通った。つくばには研究機関が多く、そこにたくさんの研究者がおり、いろいろな試みがされている。そのようなものを活用しながら、国際理解教育・道徳教育・環境教育などの独特の教育をつくばスタイル科として実践していき、教育の充実に取り組んでいきたい。 教育委員会事務局次長 谷田部小学校は現在児童数 870 人、26 学級と大きい学校である。T X 沿線開発により、今後も子供たちが増えると予想している。そのため、みどりの地区においても学校の新設は考えている。ただ、みどりの以外の地区でも増えているところがあるので、学校新設はみどりの・研学駅・つくばの北部、と 3 箇所を検討中である。
8. 震災後から太陽光発電を設置する家が特に増えてきていると思うが、つくば市の補助は 3 キロまでという話を耳にした。現在設置している人は、大体 7 ～ 10 キロの間が多いと思う。国の補助は 10 キロ未満まで出るようだし、工事費も 300 ～ 400 万円とけっこう高額なので、5 キロないしは 6 キロぐらいに増額していただけるとありがたい。	環境生活部次長 一般家庭においては、大体 3 キロ程度で間に合うのではということで、そこまでの補助としている。それ以上の発電を望む方がいらっしゃるのであれば、今後の検討課題としたい。 市長 補助を受けたいという方が非常に多く、今年は途中で補助を出せなくなってしまい、そのあと補正を組んで対応をしたという状況。少しでも多くの方に補助を出したいということもあって、3 キロワットまでとさせていただいている。今後、太陽光発電を設置していただくお宅や、発電量を増やすということも考えながら、環境政策に対する予算も増額していきたい。風車裁判で戻ってきた賠償金や、市のクリーンセンターの売電により得られた費用を一部その基金に入れ、今後少しでも太陽光の補助等を増やすべく、検討課題とさせていただきたい。
9. 筑南水道の方がいたらお答えいただきたい。市の水道で、霞ヶ浦の水	市長 大丈夫です。 上下水道部次長 つくば市の水道はおっしゃる通り霞ヶ浦から来ている。茨城県

を飲んでいるが大丈夫か。	が水源ごとに放射能検査をしており，5月19日の検査以降，全て不検出となっているので，安心してお飲みいただきたい。
10. 以前，市長に直接申し立てて敬老会へ行くバスを出していただいたことがあり，その件では感謝申し上げたい。また直接お願いしたいことがあって今日は来た。もうすぐ使えるようになる谷田部の体育館が今後は先着順で予約を受けるという話を聞いたが，それをどうにか元に戻し，木曜の午前中だけ年寄りに貸してはいただけないだろうか。	市長 なんとかご要望にこたえられることもあるかもしれないが，他の利用者との関係もあるので即答はできない。持ち帰ってよく状況を調べ，担当部で検討させていただきたい。